あいご

NO WAR

園通信　令和８年１０月１日　第７号
キッドワールドセカンドこども園
園長　　高木　良司

朝夕はずいぶんと涼しくなり、暑さ寒さも彼岸までとはよく言ったものです。

これからは日中が過ごしやすい気温となり、運動あそびに適した時期です。当園では、たくさん運動あそびをすることにより、たくさん食べ、しっかり眠り、丈夫で健康な体作りをしていこうと思います。

さて、10月の大きなめあては「努力」です。こどもは、あそびの中で「ああなりたい」「こうなりたい」と身近な人をモデルとして関わっていきます。なかには、「〇〇にはまけないぞ」と一生懸命努力をします。自分の中で「めあて」ができるとそこに向かって努力するのです。「めあて」ができ、「努力」できる環境を日々整え、それが良い形で運動会につながるように我々も努力していきたいと思います。

＜これからの予定＞

10月1～21日　別府大学短期大学部2年生幼稚園実習期間（すももぐみ）
10月　3日（土）子育てサロン（地域子育て支援）
10月　5日（月）身体計測週間（～9日、すももぐみ、かりんぐみ、れもんぐみ）
10月10日（土）お弁当日
10月13日（火）身体計測週間（～16日、いちごぐみ、あんずぐみ、きういぐみ）
10月26日（月）誕生会
10月27日（火）健康診断

※　11月14日（土）運動会（米良ひろば）
※　11月15日（日）運動会予備日
（11/15 雨天時は、11/17（火）に3歳未満児クラス、11/19（木）に3歳以上児クラスの日程で開催します）

大分市東部地区主任会　視察の受け入れ

9月2日（水）、大分市保育部会東部地区の主任会が、「こどもの主体性を引き出すための環境構成や職員の連携、療育施設との連携の仕方」の学びを目的として、当園に視察に来られました。

身に余るほどのお褒めの言葉をいただき、ただ恐縮するばかりです。これに慢心せず、よりいっそうこども一人一人へ丁寧に関わっていきたいと思います。


3歳未満児→3歳以上児クラスの説明をしています


〝ここは、保健室です〟


〝防犯カメラは全室……〟




お礼の手紙です！

中学２年生職場体験学習

９月３日(木)～４日(金)、滝尾中学校の2年生4名が職場体験学習に来ました。

生徒さんたちは、はじめはとても緊張していた表情でしたが、園児と接するうちにすぐに笑顔が見られ、打ち解けることができたようです。

２日目は、台風の影響もあり午前中までの対応となりましたが、少しばかり保育教諭とのカンファレンスの時間を設けました。その中で、保育教諭になるためには、どのようなスキルを身に付けておくと良いか、と積極的な姿勢が現れていて頼もしさを感じました。このような若者がたくさん増えれば良いと感じたひとときでした。



１階テラスの光景です



給食の配膳をしています



「〇〇つくって」と求められています



一緒にぬりえを楽しんでいます

わくわくおもいでバス遠足

９月18日(金)、れもんぐみがバス遠足に行きました。目的地は、臼杵市、二豊醤油協業組合のある富士甚醤油の工場です。

工場では、工場長の阿南さんがとても丁寧にわかりやすく説明してくれました。

初めに教室のような場所でシャーレに入った醤油の原材料をみんなで回して観察しました。予習をして原材料を覚えていた園児も、実物は初めてのようで、しっかり匂いも嗅いでいました。

その後、工場へ案内してもらい、初めて見る大きな工場に、全員感嘆の声を上げていました。

工場を後にし、次へ向かうはフェリーターミナルです。オレンジフェリーの切符売り場を貸切でき、みんなでお弁当タイムでした。

予定では、昼食後となりの臼杵港緑地公園へ行くところですが、大雨でしたのでそのまま帰園しました。

あいにくの天気でしたが、園児たちにとってはとても良い思い出になったようです。



いよいよバスに乗り込みます



学校の授業のようです



原材料の匂いを嗅いでいます



大豆の保管棟が見えます



工場内を見学しています



傘をさしての移動です



工場長にお礼の挨拶をしました



みんなで記念撮影です

＜令和8年度　1学期アンケートの結果と回答について＞

先日ご回答いただきました1学期のアンケートにつきまして、結果と回答をお知らせいたします。今回も「①とてもそう思う」、「②そう思う」という肯定的な回答をたくさんいただいています。なかでも2番と4番、8番の項目については、ほぼ100%の肯定的な回答をいただきました。11番、12番の項目については、「わからない」の回答が昨年より10～26ポイントも減り、地域への働きかけが少しずつ認知されてきていることが人勧されます。この結果に慢心せず、これからも職員一同気を引き締めて職務にあたる所存です。今後とも皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。（世帯数68、回答数42、回収率58. 7%）

A：とてもそう思う　B：そう思う　　C：あまり思わない　D：全く思わない　E：わからない

	項目	A	B	C	D	E
1	お子さんは、園に行くことを楽しみにしている	42.9	54.8	2.4	0	0
2	お子さんは、園生活や遊び、行事等に興味・関心をもって取り組み、生き生きとしている	42.9	54.8	0	0	2.4
3	お子さんは、家族や地域の人、職員などに、よくあいさつをしている	31.0	45.2	19	0	4.8
4	お子さんは、家庭・地域・園相互の支え合いにより健やかに育っている	61.9	38.1	0	0	0
5	園では、体験活動を重視して一人一人が育ち合う教育・保育が展開されている	45.2	50.0	2.4	0	2.4
6	園舎内外が整備されており、教育・保育環境の工夫に努めている	42.9	50.0	4.8	0	2.4
7	園の施設は、園児の安全に配慮したものになっている	47.6	42.9	7.1	0	2.4
8	園は、保護者が子どもの様々な様子を写真やおたより、行事に参加する機会の確保等で子どもの成長や発達等に気付く機会をつくっている	52.4	45.2	0	0	2.4
9	園は、教育・保育方針や園児の様子を園だよりや保育参観、SNS等で、積極的に情報提供している	45.2	42.9	9.5	0	2.4
10	園は、子育てに関する悩みや相談に丁寧に対応してくれる	50.0	45.2	4.8	0	0
11	園は、地域との連携を行い、理解や協力が得られるようにしている	38.1	42.9	2.4	0	16.6
12	地域の子育て家庭に対して、子育てに関するサロンや育児相談に応じるなど、子育て支援をしている	31.0	45.2	0	0	23.8
13	保育参観の時期は、適切である	38.1	54.8	4.8	0	2.4
14	保育参観のプログラムの内容は、適切である	45.2	42.9	2.4	0	9.5
15	保護者保育体験の時期は、適切である	33.3	42.9	7.1	2.4	14.3

これより、【意見・感想】を紹介します。皆様よりとても温かい感想を寄せていただいています。
前号で保育体験の感想を紹介しましたのでその分は割愛いたします。

○　いつもあたたかく子どもたちを見守り、関わっていただき、ありがとうございます。４月から生活環境が大きく変わった子どもたちも、先生方のおかげで毎日楽しく充実した保育園生活を送ることができています。また保育参観などの保育園行事も土曜日にして頂き、大変助かっております。引き続き、よろしくお願いいたします。

○　今年度になってから上の子が「〇〇ちゃん、おはよう」と“名前を呼んで挨拶”を自分からするようになっていて成長を感じています。日々の先生方の声掛け、関わりのおかげです。いつもありがとうございます。

○　１学期、本当にお世話になりました。娘がこども園で覚えたアンパンマンの手遊びをはりきって家でも披露してくれて、きっとこども園での活動が毎日楽しいのだろうなと感じます。また、保育参観では、我が子の成長を見ることができて幸せでした。きっと、日々の保育の中で先生方が一生懸命頑張ってくださっているからこそ、我が子が健やかに成長できているのだと感謝の気持ちでいっぱいです。

また、いくつかの改善が必要なご意見をいただいております。現時点で回答できる分をここにお伝えいたします。

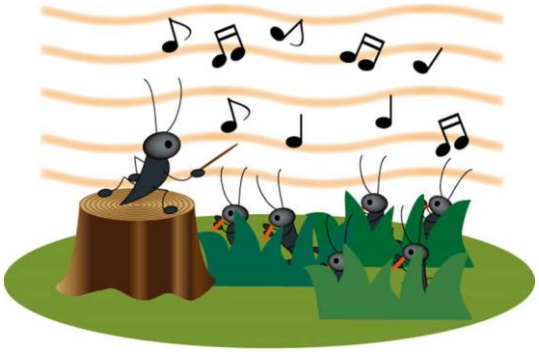
まずは、玄関内の消毒液について、しっかり補充ができていないこと、及び1階多目的トイレについて、ハンドソープが汚れていたことがありご迷惑をおかけしました。補充と保健衛生には十分注意を払っていきます。

配布書類については、基本的に配布と配信を同時に行います。直接リンクを貼るなど、利用しやすい環境にしていきたいと思います。

最後に保護者保育体験につきまして、期間を延長してほしいという声が多くなってきていることを鑑み、次回の12月は、2週間とすることを検討します。

今回いただいたご感想やご意見は、全職員で周知するとともに対象となる職員には注意を促しており、改善に向けて取り組んでいます。今後ともご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

アンケートのご協力、誠にありがとうございました。



コラム８４：子どもの心に届く言葉かけ　～１７の子どもの願い～

キッドワールド総合園長　　牧野　桂一

前回までに約束していた問題について大方紹介してしまいましたので、今回は皆様から質問を受けていました「子どもの心に届く言葉かけ」について考えていきたいと思います。

まず結論からいうと「子どもの心に届く言葉かけ」は、うまく子どもに言い聞かせるということよりも、子どもが「自分のことがわかってもらえた」と感じられる伝え方を増やすことが大切です。それは、子どもが内容そのものだけでなく、言葉が含んでいる安心感や自分に対する親の態度を敏感に受け取るからです。そこで、それらのことを配慮しながら、子どもの心に届きやすい言葉かけの基本を考えてみたいと思います。



最初に、子どもの気持ちを先に受け止めることが大切になります。子どもは、自分の行動を直される前に気持ちを分かってもらえると、話を受け取り易くなります。例えば「悔しかったんだね」とか「嫌だったね」「がんばってたんだね」というように、まず子どもの感情を言葉にしてあげると、子どもは防御するのではなく心を許してくれるようになります。

次に、言葉は短く具体的に伝えることが大切になります。長い説明は、大人にはわかりやすくても子どもには分かり難いことがあります。例えば、「走らないで」より「ここでは歩こう」。「ちゃんとして」より「おもちゃは箱に入れよう」。「何回言ったらわかるの」より「今は靴をそろえよう」というように抽象的な注意より、次に何をどうすればいいかが見えるような具体的な言い方の方が子どもに届き易いのです。

また、一方的な命令だけで終わらせないような伝え方をすることも大切になります。行動を変えて欲しいときでも、関係が切れない伝え方の方が子どもの心には残り易くなります。例えば、「やめなさい」だけで終えるより、「それは危ないからやめようね」。「早くしなさい」だけで終えるより、「あと5分で出るよ」というように理由や見通しが少しあるだけで、子どもは受け取り易くなります。

さらに、よくある場面での伝え方としてうまくいかなかったときなど、子どもが失敗した場面では、すぐに評価するより、次に向える言葉が合っています。例えば、「失敗したね」ではなく「ここは難しかったね」。「なんでできないの」ではなく「どこが難しかったかな」「次はこうしてみようか」などです。失敗を責める空気が強いと、子どもは学びより萎縮に向かってしまいます。また、感情が高ぶっているときや泣いていたり、怒っていたり、固まっていたりするときは、説明を増やすより落ち着ける言葉の方が向いています。例えば、「大丈夫、ここにいるよ」とか「今はつらいよね」とか「落ち着いてから話そう」というように声をかけると子どもは安心します。この段階では、正しい説明より安心の回復が先になるからです。

一方、望ましい行動を増やしたいときには、褒めるというより、できた行動を具体的に伝えると伝わり易くなります。例えば、「えらいね」だけでなく「自分で片づけたね」「すごいね」だけでなく「最後まで聞けたね」「よくできたね」だけでなく「順番を守れたね」というように何がよかったのかが見えると、子どもは望ましい行動を再現し易くなります。



このように、子どもに届く言葉かけには、「気持ちの受け止め」「短く具体的な表現」「次の行動が分かること」などが大切になります。逆に、届き難くなるのは、「長い説教になっている」「できていない部分ばかり見ている」「結論だけを急いで伝えている」という場面が多いようです。

このようなことの次の一歩として、まずは日常の中で、注意や指示をする前に一言だけ気持ちを受け止める言葉を足してみるのが取り組み易いようです。例えば、「悔しかったね」とか「びっくりしたね」「ここまで頑張ったね」などの言葉を付け加えるのです。その上で、必要なら短く具体的に次の行動を伝えるという流れにすると試し易くなります。

子どもが保護者から投げかけられて嬉しい言葉は、単に「褒める言葉」だけの言葉ではなく、「自分のことを見てもらえている」、「自分のことを受け止めてもらえている」「自分のことを大切にされている」と感じられる言葉です。特に次のような言葉が子どもの嬉しい言葉のようです。

1.「大好き・大切」を伝える言葉

子どもにとって、親からの愛情が言葉で伝わることは、大きな安心につながります。例えば、「大好きだよ」「あなたがいてくれて嬉しいよ」「生まれてきてくれてありがとう」「大事な○○ちゃんだよ」「いつでも味方だよ」「一緒にいると楽しいね」という言葉などです。ここでは特に「いい子だから好き」ではなく、存在そのものを肯定する言葉が重要になります。

2.「ちゃんと見ているよ」と伝える言葉

子どもが何かをしているときに、結果だけではなく過程を見て言葉にします。例えば、「一生懸命やっていたね」「自分でやってみようとしていたね」「何度もやっていたね」「さっきよりできるようになったね」「工夫したんだね」「どうやったらできるか考えていたね」という言葉などです。ここでは特に「すごい」ということだけで終わらず、何を見ていたのかを具体的に子どもに伝えるのが大切になります。



3.気持ちを受け止める言葉

子どもは自分の気持ちをうまく説明できないことがあります。その時には、「悲しかったんだね」「悔しかったね」「怖かったね」「嬉しかったんだね」「もっと遊びたかったね」「自分でやりたかったんだね」「嫌だったんだね」という言葉で受け止めてあげることが大切です。ここでは特に「そんなことで泣かないの」ではなく、まず「そう感じたんだね」と受け止めることが大切です。

4.「信じているよ」と伝える言葉

子どもを信じているということを伝えるためには「やってみようとしているね」「きっとできるよ」「どうしたらできるか一緒に考えよう」「失敗しても大丈夫」「何回でもやってみよう」「困ったら言ってね」「手伝ってほしいときは教えてね」と言います。このとき特に「できる・できない」だけで評価しないで、挑戦する気持ちを支える言葉が大切になります。

5.子どもに選ばせる言葉

子どもの主体性を育てるためには、「○○しなさい」だけではなく、「どっちからする？」「赤と青、どっちがいい？」「自分でやってみる？手伝おうか？」「どうしたいの？」「どう思ったの？」など、子どもが自分で考えたり選んだりできる言葉も、「自分のことを尊重してもらえている」という感覚を育てることにつながります。

以上、子どもの心に届く言葉の具体例をたくさんあげて説明してきましたが、これらの言葉の中で活用できそうなものがありましたら是非活用してみてください。



保育士（保育教諭）は、常にその場に相応しい言葉は何かを考えながら園児と関わっています。良かれと思ってかけた言葉が、想像していた姿にならないことはよくあることです。しかしながら、想像した以上の姿を見せてくれることもあります。その素敵な姿が見たくていつも頭はフル回転しています。

今回のコラムを読むにあたり、より肯定的な言葉を選ぶことの道筋が示されたので、より良い言葉選びをし、楽しい活動にしたいと思います。